

- 平成26年産の水稻「青天の霹靂」が平成27年2月に日本穀物検定協会の米食味ランキングで青森県で初の「**特A**」評価を取得
- 「青天の霹靂」の良食味・高品質米栽培技術の普及に向け、関係機関等で構成する「**東青地域『青天の霹靂』生産指導プロジェクトチーム**」を設置し、計画的な活動を展開
- 良食味米生産を目指して「青森農協『青天の霹靂』生産者部会」が結成されたのを機に、**部会員が技術普及拠点ほを担当**し栽培技術の普及に活用
- 「青天の霹靂」は平成27年産、28年産と**本ランキングで「特A」評価を取得**するとともに、生産者の売れる米づくりに取り組む**意識が向上**

具体的な成果

普及指導員の活動

1 「特A」評価の継続的取得

- 平成26年産の「青天の霹靂」が参考品種ながら「特A」評価を取得後、平成27年産、平成28年産が連続して**本ランキングで「特A」評価を取得**

2 作付面積の拡大と良質米生産

- 良食味品種「青天の霹靂」栽培の意欲が高まり**作付面積が拡大**

(H27年 → H28年)

25ha(20名) → 90ha(55名)

- 出荷基準の達成率が高水準を維持



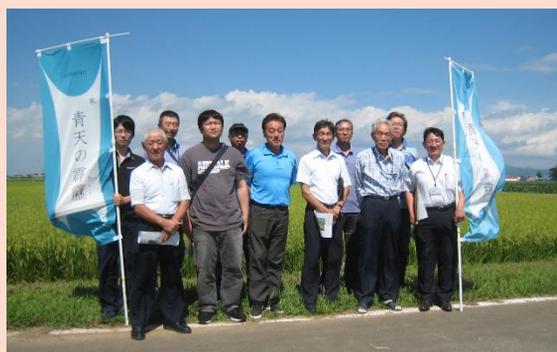
出荷基準達成率

H27年 100%

H28年 99.3%

3 良質米生産技術の地域への普及と生産者の意識の向上

- 平成28年4月に「青森農協『青天の霹靂』生産者部会」が設立され、「**売れる米づくり**」という**共通の目標達成に向けて協力して取組を推進**



生産者部会の視察研修会

平成27～28年

- 「**東青地域『青天の霹靂』生産指導プロジェクトチーム**」を設置し、生産指導体制を整えるとともに、活動工程表に基づいた**計画的な活動を展開**

- **技術普及拠点ほを設置**し、栽培マニュアルに基づいた**良食味米生産指導や消費者への情報発信の場として活用**

- 「**タンパクマップ**」、「**土壌の腐植マップ**」等**リモートセンシング技術**によりほ場毎の施肥設計と作付計画を支援

平成28年

- スマートフォンやタブレット等**ICT技術を用いた「適期収穫マップ」**により、生産者のほ場毎の登熟程度を示すことにより**適期収穫を指導**

普及指導員だからできたこと

- 1 地域の実情を知り、専門技術を持っている普及指導員だからこそ、**施肥設計や作付計画を提案し、地域に合った良食味米生産技術の普及につなげることができた。**
- 2 日頃から信頼関係を構築している先導的な生産者を最大限に活用することにより、栽培管理技術を**スムーズに部会全体に普及することができた。**

青森県

水稲「青天の霹靂」の生産拡大とブランド化の 推進に向けた普及活動

活動期間：平成27～28年度

1. 取組の背景

水稲品種「青天の霹靂」は、平成26年産米で参考品種ながら青森県初の「特A」評価を取得し、平成27年に津軽地域の気象条件が良好な地帯で本格的に作付けが開始された。東青地域県民局管内では青森市が作付地域となり、ブランド確立に向けて、良食味・高品質米の生産のために全作付者に対する栽培指導の徹底が必須となった。

このため、良食味米生産に向けて管内の関係機関が連携し、生産指導を円滑に行う体制整備と、生産者に対する速やかな栽培技術の普及が求められた。

2. 活動内容

(1) 関係機関の情報共有体制の構築

平成27年3月に管内の集荷団体、青森市、青森県産業技術センターをはじめとした関係機関で構成する「東青地域『青天の霹靂』生産指導プロジェクトチーム」を設置し、生産指導体制を整えるとともに、年間の活動工程表を作成し、計画的な活動を展開した。また、平成28年に青森農協に「『青天の霹靂』生産者部会」が結成されたのを契機に、集荷団体ごとの生産者の代表者も構成員とし、年間計画を基に連絡会議や意見交換会を開催し情報共有体制の構築を図った。



プロジェクトチームの連絡会議

(2) 「青天の霹靂」技術普及拠点ほの設置

平成27年度から、「青天の霹靂」の作付者への品種特性周知と栽培技術の普及を図るため、農協と連携して「『青天の霹靂』技術普及拠点ほ」を3カ所設置した。拠点ほでは栽培マニュアルに基づいた良食味米栽培技術指導を行うとともに、生産者や集荷団体の生産指導担当者を参集した現地講習会や、各種メディアを通じて消費者に対する情報発信の場として活用した。



拠点ほでの生育調査

(3) プロジェクトチームによる良食味米生産指導

ア 品種特性と栽培基準の周知

「『青天の霹靂』良食味・高品質米生産マニュアル」を活用し、作付者に対し品種特性を周知するとともに、土壌分析結果に基づいた珪酸質資材の施用など生産目標クリアーに向けた良食味米の生産技術を指導し、生産者の意識向上を図った。

イ 現地検討会及び講習会の開催

栄養診断基準による追肥量の判定を全作付者に対し実施するとともに、スマートフォンやタブレットを用いて、リモートセンシングによる「適期収穫マップ」を活用し、ほ場毎の刈取の目安となる時期を提示し、登熟の進み具合に応じた適期収穫の指導を行った。



栄養診断に基づく追肥量の判定



タブレットを使って適期収穫マップを提示

ウ ほ場の選定ときめ細かな施肥設計指導

リモートセンシングによるほ場毎のタンパクマップと土壌の腐植マップを活用し、次年度作付けする上での施肥設計の注意点を指導するとともに、生産者がほ場を選定する際の目安として示した。

3. 具体的な成果

(1) 「特A」評価の取得

平成26年産米が参考品種ながら「青天の霹靂」で「特A」評価を習得して以降、平成27年、28年と連続して「特A」評価を取得した。

(2) 「青天の霹靂」の作付面積拡大と良質米生産

平成27年の作付面積は25ha(20名)、平成28年は90ha(55名)と作付面積は拡大し、出荷基準の達成率は平成27年産が100%、平成28年産が99.3%と、高い水準を維持している。

(3) 良質米生産技術の普及と生産者の意識向上

栽培マニュアルの遵守の励行と、技術普及拠点ほを活用した追肥や適期刈取指導の実施、スマートフォンなどICT技術を用いたデータの提示により、良食味米生産技術の普及が図られた。

また、平成28年には青森農協に「青森農協『青天の霹靂』生産者部会」

が設立され、生産者が共通の目標達成に向けて取り組むなど良食味米生産の意識が向上した。

4. 農家等からの評価・コメント

（「青森農協『青天の霹靂』生産者部会」部会長 山崎 優氏）

青森農協では「青天の霹靂」のデビューに伴い、良食味米生産に対する意識が高まったことから、新たに「青森農協『青天の霹靂』生産者部会」を設立しました。部会長は生産者を代表してプロジェクトチームのメンバーになっており、生産者側の視点からチーム活動に参画しています。



生産者部会の設立総会

東青地域は自然環境やほ場条件が多様ですが、普及指導員をはじめとする指導機関から助言、指導をいただいた結果、高い出荷基準達成率を維持することができました。今後も、出荷基準の達成とともに、生産目標により近づけられる米づくりを目指し、全国に誇れる「青天の霹靂」の生産に努めていきたいと思えます。

5. 普及指導員のコメント

（青森県東青地域県民局地域農林水産部 総括主幹 加藤寿男）

「青天の霹靂」の良食味・高品質米生産に向けて、「東青地域『青天の霹靂』生産指導プロジェクトチーム」を核として関係者の意識統一を図りながら、作付者に対する技術指導等を進めていく。

6. 現状・今後の展開等

- (1) 平成29年度の東青地域の「青天の霹靂」の栽培面積は129ha（28年度は90ha）で、前年度の1.4倍、作付者は64名（28年度は55名）で前年度の約1.2倍と増加したことから、新規作付者に対する品種特性や栽培基準の周知とともに、良食味米栽培技術のスムーズな普及を図る。
- (2) 玄米タンパク質含有率の年次変動を考慮し、「出荷基準」（タンパク6.4%以下）より厳しい「生産目標」（タンパク6.0%以下）を目指した米づくりを進め、食味や品質の安定と全体の底上げを図る。